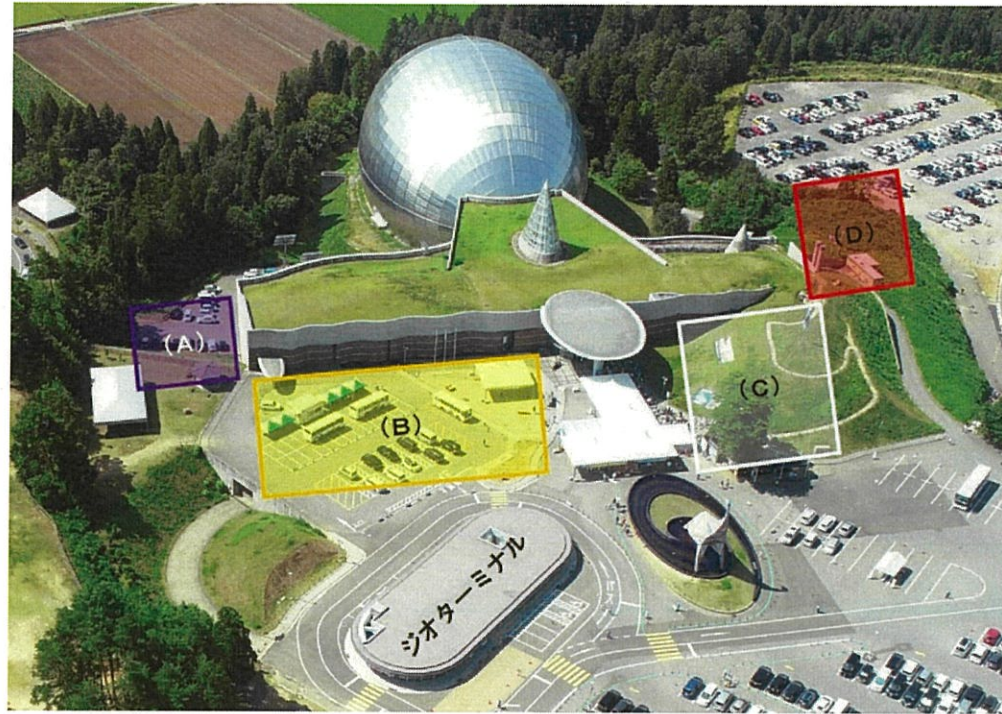


## 1 増改築場所の候補地

- 増改築場所の候補地案A～Dの特徴や課題は以下のとおりであり、候補地Cが最も増築場所に適していると評価される。



候補地	特徴・課題	評価
A	現博物館の外観デザインを継承しやすいが、東側園内道路に近接し道路沿いの植栽を伐採する必要があるため、公園付近からの景観への配慮が必要	△
	現収蔵庫や研究施設と隣接するため、収蔵庫の増設に適している	○
	観覧者の館内動線を確保するため、事務所・研究施設の配置換えが必要	×
	駐車場を転用する必要がない	○
B	ジオターミナルの陰になり、それぞれの建物に窮屈感がある配置になる	×
	エントランスに近接しており、観覧動線の複数化など多様な観覧形態への対応が可能	○
	地下搬入出路を再整備する必要があるため、整備費が増高する	×
	障がい者用駐車場の確保が必要になる	×
C	エントランスを中心に来館者を受け止めるようなわかりやすい配置になる	○
	地下搬入出路と近接しているため、収蔵庫への動線設定が容易	○
	エントランスに近接しており、観覧動線の複数化など多様な観覧形態への対応が可能	○
	公園駐車場の一部を転用する必要があると共に、屋上空間への動線検討が必要	×
D	エントランスから距離があるため来館者からの視認性が悪く、中部縦貫自動車道や国道等から見える卵型景観への配慮も必要	△
	エントランスから距離があるため、観覧動線の検討が必要	×
	地下搬入出路から距離があるため、収蔵庫への搬入出路が別途必要	×
	駐車場を転用する必要がない	○

## 2 恐竜博物館の機能強化に向けた施設整備内容

### (1) 規模

	機能	概要	面積	整備費
最低限必要な機能	収蔵庫	・30年間の恐竜化石発掘調査により、9割以上が埋まっている状況 ・今後の調査研究に対応するため増設、一部スケルトン化を検討	1,000 m <sup>2</sup>	11億円
	ショップ レストラン	・混雑の緩和を図り、増加する来館者に対応するため拡充	(700 m <sup>2</sup> )	6億円
	特別展示室 (兼多目的ホール)	・ダイナミックな企画展等の開催可能な面積・天井高を確保 ・高さ10mの大型映像の導入(実物大・大迫力の恐竜世界を仮想体験)	1,000 m <sup>2</sup>	11億円
	エントランス改修	・混雑を解消するため拡充 ・団体や再入場入口の設置、来館者の雨除け・日除け対策	(250 m <sup>2</sup> )	2億円
	多言語化	・案内や解説、音声ガイドの多言語化対応 ・シアター映像への多言語対応設備の導入等	—	1億円
改修に併せて充実すべき機能	恐竜研究体験	・化石発掘体験の通年化(石の確保が課題)やクリーニング、レプリカ標本作製体験など恐竜博物館ならではの恐竜研究体験	400 m <sup>2</sup>	6億円
	イベントホール	・恐竜ライブショーや企業による展示等 ・団体用・混雑時の休憩・待合スペース	800 m <sup>2</sup>	7億円
	図書室 キッズルーム	・これまで収集してきた貴重な図書資料を展示・管理 ・恐竜絵本などにより、親子が楽しく恐竜を学べるスペース	(280 m <sup>2</sup> )	2億円
	シアター改修	・高精細・大画面で技術革新にも対応可能な映像設備を導入	(350 m <sup>2</sup> )	3億円
	エントランス改修	・eチケット入退場システムの導入 ・総合チケットカウンターやバス発着場の設置	400 m <sup>2</sup>	5億円
共用部	通路、階段やトイレなど増築に伴い必要となるもの	1,400 m <sup>2</sup>	11億円	
環境改善	トイレ増設、団体休憩スペース等の確保	700 m <sup>2</sup>	8億円	
増改築面積 増築(改築)			5,700 m <sup>2</sup> (1,580 m <sup>2</sup> )	73億円

### (2) 全体事業費

	前回試算		県職員検討結果
<b>増改築費(設計費含む)</b>	<b>105億円</b>	→	<b>65億円</b>
環境改善費	0億円	→	8億円
土地造成費	5億円	→	5.9億円
大規模修繕費	15億円	→	15億円
<b>概算事業費</b>	<b>125億円</b>	→	<b>93.9億円</b>

※これとは別に常設展示を更新する場合には、その内容、規模に応じた費用が必要

## 3 想定スケジュール

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
計画策定	基本・実施設計	入札手続	建築・展示工事	開館準備等 ● 夏頃開館
	敷地造成			● 新幹線開業

- 整備発注方法について、令和5年夏の開館を目指し、設計業務(基本・実施設計)を一括発注

- 設計業務を一括発注することにより、1年8か月程度の短縮が可能
- 設計と施工(建築工事等)を分離することにより、精度の高い工事費の算出や設計(整備内容)への県の意向が反映しやすいなどのメリットあり。また、それぞれのタイミングで予算・議会説明も可能
- 設計・施工を含めた一括発注の場合は、近県においてもほとんど例がなく、発注までに施工までを含めた詳細な条件を契約内容として定めておく必要があるなど、準備に時間を要する。

#### 4 機能強化による新たな展開例

・博物館と勝山市（長尾山総合公園）・周辺市町が連携し、来年度から混雑・渋滞への対応や県内・市内への回遊を促進するための方策に着手・実行（予算化）

